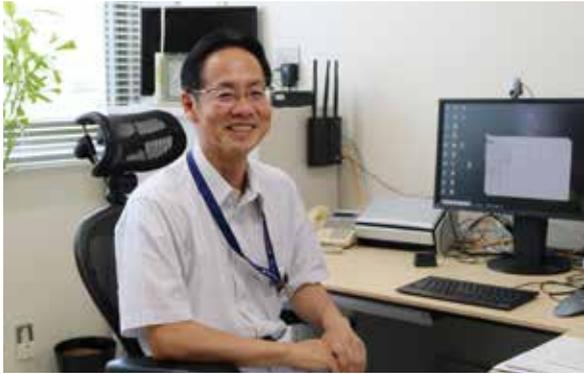


成績も上がり、満足度も高い グループで学ぶTBL (Team-Based Learning) という手法



大学院医歯薬学研究部 歯学域 教授
松香 芳三 (まつか よしぞう)



半分、授業しない!?
徳大が取り組むスゴい学習法

現在、徳島大学が力を入れているアクティブラーニング（学生が能動的に学ぶ学習方法）。顎機能咬合再建学でもこの手法を取り入れ、効果を上げているそうです。

顎機能咬合再建学では、歯科補綴学の一分野で、歯が大きく欠けたり、なくなった場合にかぶせものをしたり、ブリッジなどを作る修復方法に関して学ぶ授業をしています。半期15回のうち、特別授業が1回、7回が通常授業、残り7回がTBL (Team-Based Learning) というアクティブ



ラーニングを取り入れています。「TBLは、教員が授業をしないんです」という松香先生。え!? 半分も授業しなくて大丈夫なんです

か? 「前の回到資料を渡して『これを勉強してきなさい』と伝えて、授業の最初に国家試験レベルのテスト



トをするんです。その後、6人ずつくらいのグループに分かれて同じ問題を回答してもらおう。そうすると個人でやった場合とグループで解いたときとの成績が出ます。その後、質問を受け付けて、追加で情報を伝え、さらにそれよりもちょっと難しい、臨床の現場ででてくるようなグループ応用課題を与えて、ディスカッションしてもらおう。

そうして最後の期末試験の成績を比べると、TBLで勉強した項目の方が成績も高く、学生たちの満足度も高いという結果が出ています。

与えられた資料を読み込み、理解を深めてから授業に臨み、グループディスカッションを通じてお互いの知識をシェアしながら学び進める。この方法だと知識が定着しやすいのだとか。成績も満足度も高いことから、学生自身はその効果を実感していることが伺われます。

後期のTBLは12月6日からスタート。受講している皆さん、お楽しみに!